

米国の宇宙探査に係るオバマ大統領の所見(概要)

参考3

オバマ大統領が、4月15日(木)(米国時間)に米国ケネディ宇宙センターにて行った今後の宇宙探査についての演説において、2011年度予算教書から新たに加わったポイントは、以下のとおり。

- オリオンの見直し
 - ・有人宇宙船オリオンを、数年の間に国際宇宙ステーションの緊急脱出用に転換することにより、他国への依存度の減少を実現。

- 重量級ロケットの開発
 - ・2015年までに、新たな重量級ロケットの設計を終え、その後開発を行う。

- 宇宙の新たなフロンティア到達に向けた新たなビジョン
 - ・2025年に、新しい宇宙船で月以遠に人を送る宇宙探査ミッションを開始する。2030年代中頃までには火星軌道に人を送り込み、その後着陸を行う。

- 経済発展と雇用創出
 - ・新しい計画により、宇宙関連分野での経済発展と雇用の創出を図る(民間の輸送機開発による10,000人以上の雇用創出など)

オバマ大統領の演説概要

出典;The White House Office of the Press Secretary For Immediate Release April 15,2010
Remarks by the President on Space Exploration in the 21st Century

{宇宙プログラムの新章}

- ・宇宙探査は、贅沢なものではなく、必須なもの。NASAの現在、将来に亘るミッションに100%コミットしている。
- ・NASA予算を5年間で60億ドル(約6000億円)増加し、太陽系のロボット探査、火星などの調査、ハッブル宇宙望遠鏡後継機、地球観測や、ISSの少なくとも5年間の延長などに投資する。

{民間の活用とオリオン・重量級ロケット}

- ・NASAは、ISSへの人の輸送について民間を信頼しており、安全性を高める支援をすることにより、実現できる。
- ・中止した有人宇宙船オリオンを、ISSの緊急脱出用に転換することにより、他国への依存度を減少。
- ・より遠い宇宙への有人探査を可能とする新しい大型ロケットの研究に3億ドル(約300億円)以上を投資し、遅くとも2015年に設計を完了し、その後開発を行うことで、当初より2年早い実現が可能となる。

{新たな技術開発}

- ・宇宙飛行士がより遠く、早く、高頻度、低コストで宇宙へ行くことを可能とするために、新たな技術開発を加速する。

{新たな目標と旧計画の問題点}

- ・2025年までに新しい宇宙船により月以遠への深宇宙への飛行を可能とし、最初に小惑星へ飛行士を送る。また、2030年代中盤までには人を火星軌道へ投入し、その後火星に着陸させる。
- ・月に最初に行く計画の問題は、既に米国は月に行っており、他にも多くの探査対象があるため。
- ・もっと困難な対象を目指すことにより、21世紀の米国の宇宙におけるリーダーシップをさらに強固にする。

{雇用の創出}

- ・従来の計画と比較し、ケネディ宇宙センター近代化への取組により、センター周辺に2,500以上の雇用に創出する。
- ・民間による新しい輸送機開発を活性化することにより、国内的に推定10,000以上の雇用に創出する。
- ・ホワイトハウスなどの主導による地域経済発展と雇用創出のための計画策定の施策(4千万ドル、約40億円)を立ち上げる。

{NASAへ予算を使う妥当性}

- ・宇宙プログラムは、我々の生活、経済の発展、国民の高揚、雇用の提供などに資するものであり、それがNASAへ投資する理由である。

{月への着陸は始まりか終わりか?}

- ・月への着陸は我々の知識の拡大などに資する歴史上の偉大な業績の一つであり、終わりではなく、始まりである。 2